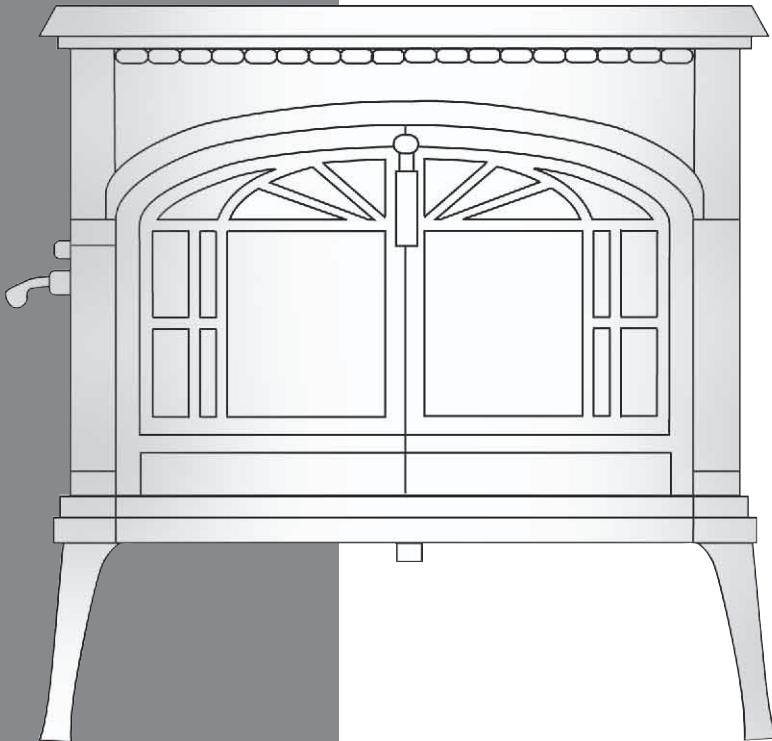




The CONCORD

Woodburning Stove



コンコード

据え付け・取り扱い
説明書

警告:

この取り扱い説明書の指示を守っていただけない場合、火災が発生し、結果的に、資産の損害や怪我、あるいは死亡事故につながることがあります。

この取り扱い説明書は必ず保存してください。

はじめに

マジェスティックの薪ストーブ「コンコード」をお買いあげいただき、まことにありがとうございます。コンコードは、触媒方式ではありませんが、新しい燃焼技術を導入した自然燃焼型の薪ストーブです。すぐれた科学性と伝統的な様式美をかねそなえたコンコードは、熱効率も良く、この取り扱い説明書の指示通りにご使用いただくと、安全で経済的かつ頼りになる暖房器具として末長くご利用いただけます。

コンコードは、正確な量の一次空気と二次空気が耐火レンガで囲まれた火室に送り込まれると高い熱効率を生むようになっています。コンコードシリーズは、カナダ規格協会(CSA)の検査を合格しました。この検査の規格は、アメリカ合衆国ではANSI/UL-1482、カナダではULCS627とCAN/CSA B366に合致します。コンコードシリーズは薪焚き専用のストーブです。ほかの燃料は燃やさないでください。

コンコードの据え付けは、専門家に行ってもらうようお勧めします。ご自分で据え付けるときは、専門家のアドバイスを仰ぎながら行うようにしてください。また火災保険適用条件について、保険会社に問い合わせて、保険の適用とのかねあいについても確認しておかれようお勧めします。この取り扱い説明書には、据え付けや運転に関する指示のほかに、メンテナンスや組み立てに関する指示も含まれています。据え付けや運転開始の前に必ずこの取り扱い説明書を最後までお読みください。

将来必要になることがありますので、この取り扱い説明書は捨てずに、必ず保存しておいてください。



目次

○仕 様.....	2P
○クリアランス(離隔距離).....	3P
○組み立て	6P
○運 転.....	7P
○メンテナンス.....	10P
○ドラフト管理.....	11P
○パーツリスト.....	13P

アクセサリー

- #1891 外気導入アダプター
- #1892 ボトム・ヒートシールド・キット
- #1893 リアー・ヒートシールド・キット

仕様

■コンコード

最大熱出力11,000Kcal ^{※1}
暖房面積最大158m ² (48坪) ^{※2}
最大薪長さ50cm
薪の補充正面とサイド
煙突径直径150mm
煙突出口の位置上と後
一次空気セッティングは手動。その後はサーモスタットで自動的に調整。
灰の処理取り外し可能な灰受け皿
ガラス高温耐熱、赤外線ガラス
重量190kg
幅(左脚から右脚まで)740mm
奥行き(フロントパネルからリーカバーまで)610mm
高さ710mm

※1:この数値はストーブの運転の仕方、燃料に含まれる水分の量、家の設計、土地の気候によっても異なります。ここに示した数値は、研究所において平均的な効率で燃やしたときの最大熱出力です。

※2:これらの数値は、ニューイングランドの典型的な冬の気候のもとで、建築法に適合した住宅でコンコードを焚いたときに得られた数値です。建築法の基準に達しない住宅(断熱が悪いあるいは地下室)や、寒さのより厳しい地域やより温暖な地域にお住まいの場合の数値は、これとは異なってくるかもしれません。ストーブの性能はたくさんの要素に影響されますので、実際の暖房能力の推定にあたっては、マジェスティックの販売店にお問い合わせください。

この図面は縮尺図ではありません。

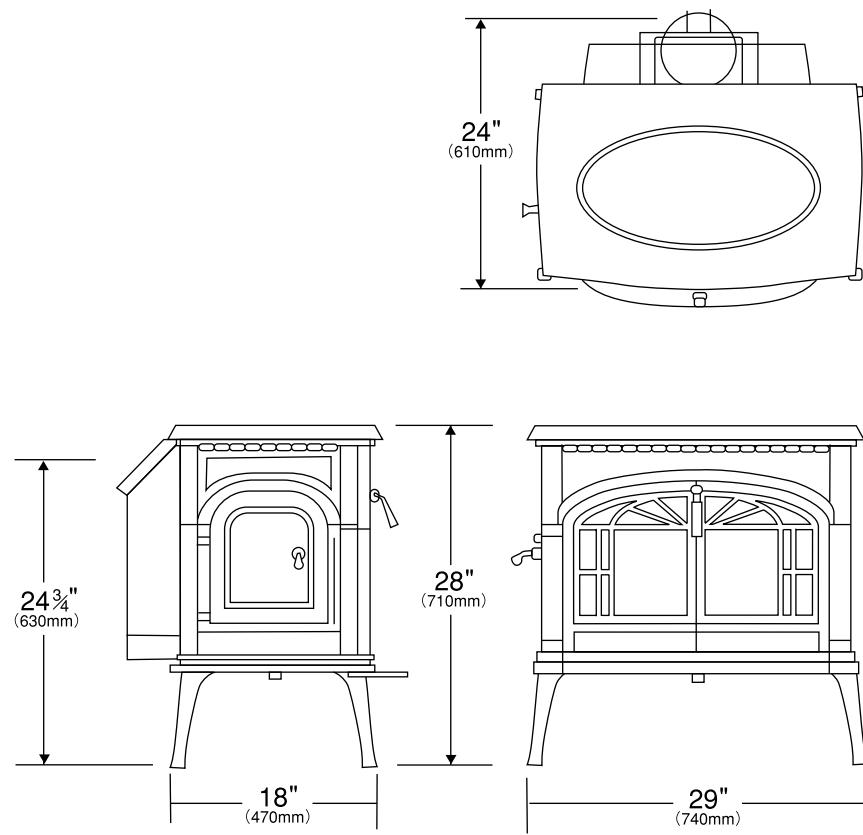


図1 コンコードの寸法

コンコード クリアランス・チャート

下記のチャートと次ページの図を参照にして、お客様の据え付けに必要なクリアランスを計算してください。いずれにせよ、放射熱という鉄物の特性を最大限に利用するには、ストーブをなるべく壁から離して設置するようお勧めします。

クリアランスとは、ストーブの鉄物製の天板から可燃性物質の表面までの離隔距離をいいます。煙突のクリアランスは、煙突表面と可燃性物質の表面との距離を測定します。二重壁煙突のクリアランスは、煙突メーカーが指定している数値に従ってください。

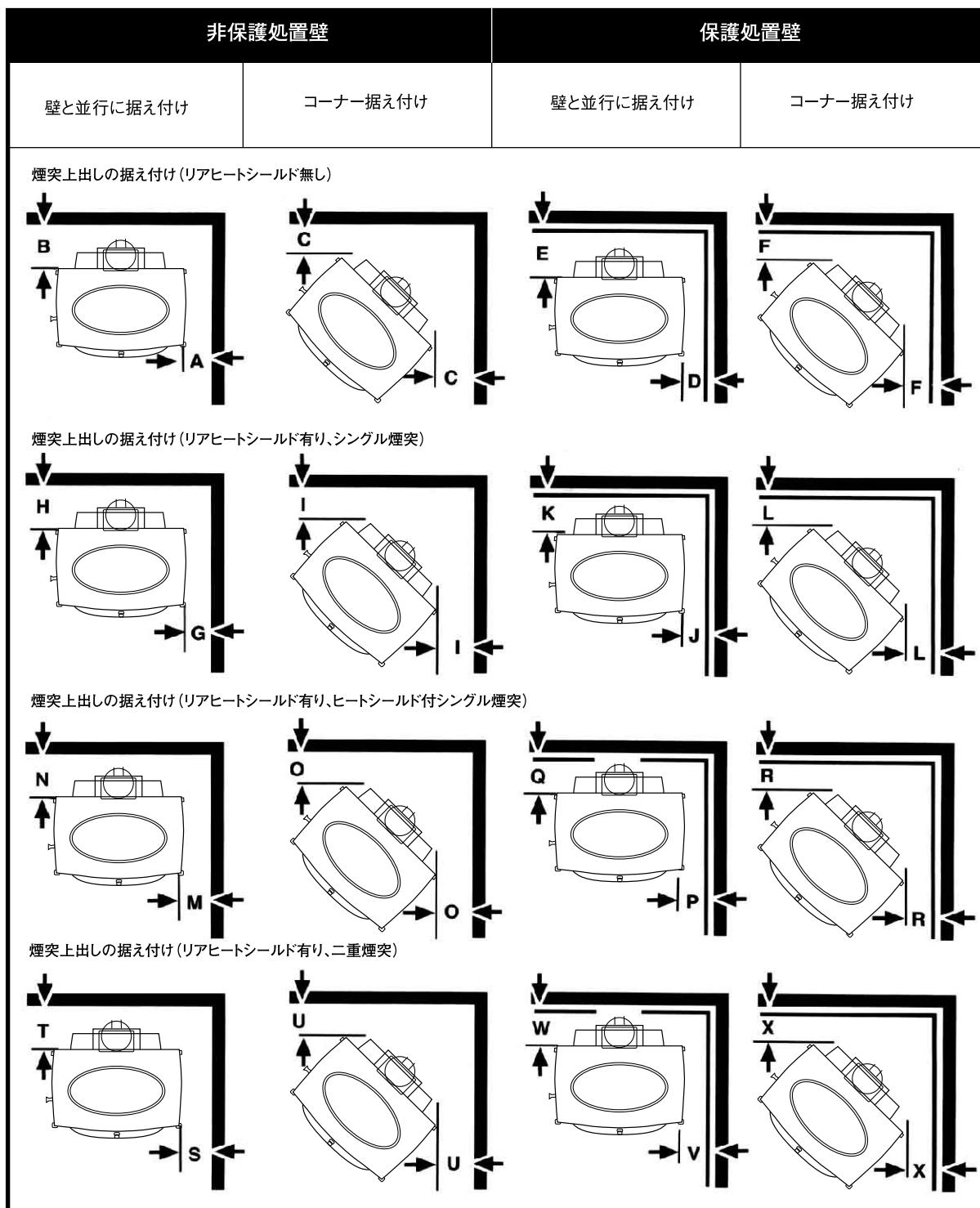
ストーブ・クリアランス	非保護処置壁			保護処置壁		
	壁と平行に据え付け		コーナー 据え付け	壁と平行に据え付け		コーナー 据え付け
	横	後ろ	コーナー	横	後ろ	コーナー
煙突上出し (リアヒートシールド無し)	A 21" (530mm)	B 24" (610mm)	C 21" (530mm)	D 12" (300mm)	E 14" (360mm)	F 10" (250mm)
煙突上出し (リアヒートシールド有り シングル煙突)	G 21" (530mm)	H 24" (610mm)	I 21" (530mm)	J 12" (300mm)	K 14" (360mm)	L 10" (250mm)
煙突上出し (リアヒートシールド有り ヒートシールド付シングル煙突)	M 21" (530mm)	N 22" (560mm)	O 18" (460mm)	P 12" (300mm)	Q 14" (360mm)	R 8" (200mm)
煙突上出し (リアヒートシールド有り 二重煙突)	S 16" (410mm)	T 12" (300mm)	U 18" (460mm)	V 12" (300mm)	W 11" (280mm)	X 18" (200mm)
煙突後出し (リアヒートシールド無し)	Y 18" (460mm)	Z 19" (480mm)	N/A	AA 12" (300mm)	BB 14" (360mm)	N/A
煙突後出し (リアヒートシールド有り)	CC 16" (410mm)	DD 17" (430mm)	N/A	EE 12" (300mm)	FF 11" (280mm)	N/A
煙突のクリアランス	非保護処置壁（垂直）			保護処置壁（垂直）		
シングル煙突	19" (480mm)			13" (330mm)		
	非保護表面材（水平）			保護表面材（水平）		
シングル煙突	23" (580mm)			23" (580mm)		
ストーブ前方の 可燃物とのクリアランス	すべての据え付けの場合において 48" (1220mm)					

*ストーブと洗濯物、家具、焚き付けなどの可動性の可燃物との距離は1220ミリ以上離れてなければなりません。

※保護処置壁とは、可燃材と不燃材の間に空気層25mm以上を設けた場合を言います。

コンコード クリアランス・ダイヤグラム

煙突上出しの据え付け。床保護は、ストーブの前方460mmまで伸びているようにしてください。



コンコード クリアランス・チャート

下記のチャートと次ページの図を参照にして、お客様の据え付けに必要なクリアランスを計算してください。いずれにせよ、放射熱という鉄物の特性を最大限に利用するには、ストーブをなるべく壁から離して設置するようお勧めします。

クリアランスとは、ストーブの鉄物製の天板から可燃性物質の表面までの離隔距離をいいます。煙突のクリアランスは、煙突表面と可燃性物質の表面との距離を測定します。二重壁煙突のクリアランスは、煙突メーカーが指定している数値に従ってください。

ストーブ・クリアランス	非保護処置壁			保護処置壁		
	壁と平行に据え付け		コーナー 据え付け	壁と平行に据え付け		コーナー 据え付け
	横	後ろ	コーナー	横	後ろ	コーナー
煙突上出し (リアヒートシールド無し)	A 21" (530mm)	B 24" (610mm)	C 21" (530mm)	D 12" (300mm)	E 14" (360mm)	F 10" (250mm)
煙突上出し (リアヒートシールド有り シングル煙突)	G 21" (530mm)	H 24" (610mm)	I 21" (530mm)	J 12" (300mm)	K 14" (360mm)	L 10" (250mm)
煙突上出し (リアヒートシールド有り ヒートシールド付シングル煙突)	M 21" (530mm)	N 22" (560mm)	O 18" (460mm)	P 12" (300mm)	Q 14" (360mm)	R 8" (200mm)
煙突上出し (リアヒートシールド有り 二重煙突)	S 16" (410mm)	T 12" (300mm)	U 18" (460mm)	V 12" (300mm)	W 11" (280mm)	X 18" (200mm)
煙突後出し (リアヒートシールド無し)	Y 18" (460mm)	Z 19" (480mm)	N/A	AA 12" (300mm)	BB 14" (360mm)	N/A
煙突後出し (リアヒートシールド有り)	CC 16" (410mm)	DD 17" (430mm)	N/A	EE 12" (300mm)	FF 11" (280mm)	N/A
煙突のクリアランス	非保護処置壁（垂直）			保護処置壁（垂直）		
シングル煙突	19" (480mm)			13" (330mm)		
	非保護表面材（水平）			保護表面材（水平）		
シングル煙突	23" (580mm)			23" (580mm)		
ストーブ前方の 可燃物とのクリアランス	すべての据え付けの場合において 48" (1220mm)					

* ストーブと洗濯物、家具、焚き付けなどの可動性の可燃物との距離は1220ミリ以上離れてなければなりません。

※保護処置壁とは、可燃材と不燃材の間に空気層25mm以上を設けた場合を言います。

組み立て

コンコードの組立には次の道具が必要です。

- 9/16" オープンエンド・レンチ
- 安全メガネと手袋
- マイナスドライバー
- 電動ドリル、錐幅1/8"(3mm)
- プラスドライバー

◆開梱手順

- 1.梱包のストラップやビニールカバーを取り除きます。
- 2.輸送中に破損や紛失した部品がないかチェックし、破損が認められたときはすぐに販売店に連絡してください。破損や紛失部品があるときは、ストーブの据え付けは始めてください。

パーツバッグには下記の金物が入っています。

- ストーブの脚(4)
- 3/8-16 × 1 1/4" 六角頭脚ボルト(ワッシャー付き)(4)
- 補修ペイント(ホーロー仕上げのストーブにだけついてます)

◆ストーブの脚の取り付け方

ストーブの底から4つの大きなネジをはずします。このネジは使用しません。パーツバッグに入っている六角頭ボルトを使って脚を取り付けます。3本の脚には3/8" ワッシャーを使ってください。ドア／ダンパー・ハンドル・ホルダーは右の前脚に取り付けます。ホールダーの位置は、ハンドルをストーブの右側から受け止められるような位置に決めてください。ボルトをしっかりと締めます。

注意:このとき、あまりきつく締めすぎるとネジ溝をつぶしてしまう原因になります。

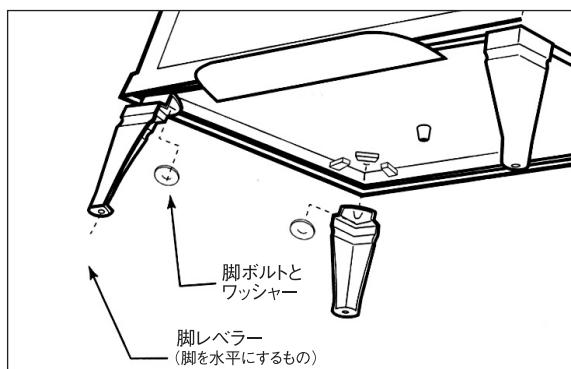


図2 ストーブの脚と脚レベラーの取り付け方

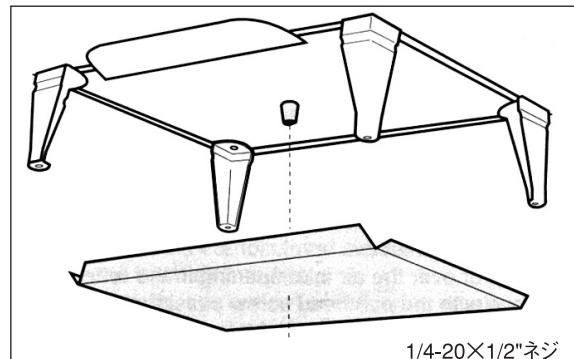


図3 ボトム・ヒートシールドを取り付ける方法

◆ハンドルホルダー

フロントドア、サイドドアの開閉には、取り外しのできるウッドハンドルをご使用ください。使用後は必ず取り外しましょう。付けたままにしておきますと、非常に熱くなります。ハンドルは、右前脚のうしろにあるハンドル・ホルダーに置いてください。

(図3a)

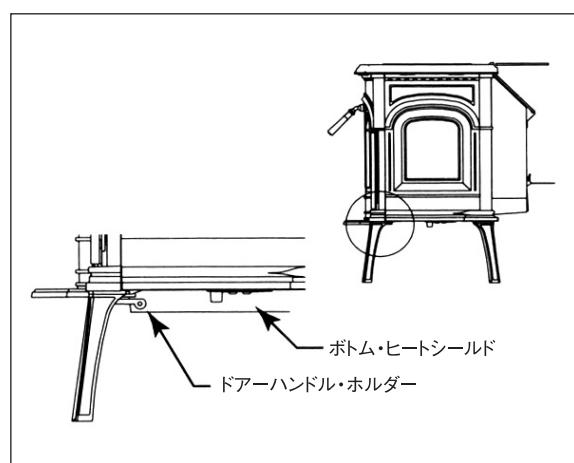


図3a ハンドル・ホルダーとヒートシールドの位置

◆ボトム・ヒートシールドの取り付け方

- 1.1/4-20×1/2"プラスネジを、ストーブ底部の中央にあるでっぱりから外してください。(図3)
- 2.このプラスネジを使って、ストーブの底にボトム・ヒートシールドを取り付けます。このとき、シールドの四隅が、ストーブ底部の四隅にある脚の根元と丁度合うはずです。

◆外気導入アダプターの取り付け方

オプションの外気導入アダプターにはカラー(環状のもの)が付いていて、直径3インチ(75mm)のエアーダクトがこれに直接付けられます。取り付け場所は、ストーブのうしろにある空気取込口付近です。2通りの取り付け方があり、1つはリアヒートシールドを使った場合で、もう1つはリアヒートシールドを使わない場合です。

◆リアヒートシールドを使った場合

- 1.アダプターをリアヒートシールドにある空気取込口と組み合わせてください。図4(下の図)を参考にして、アダプターの開口部とリアヒートシールドについている穴とを合わせてください。
- 2.キットに入っている2個のタッピングネジを使って、アダプターをリアヒートシールドに取り付けます。

◆リアヒートシールドを使わない場合

- 1.ストーブの背面を正面に向けてください。一次空気取込口の向かって左側の上の角にあるネジを2回転ゆるめます。アダプターを、ストーブ背面にある空気取込口の上に位置させ、ネジでスタンドオフの溝付きタブに貫通させます。ダンパーのタブが必ずストーブとスタンドオフの間に位置し、ネジをゆるめる前と同じになるように合わせてください。スタンドオフの点検穴からネジを締め付けます。サーモスタットと一次空気フラップは自由に動けなければなりません。
- 2.アダプターを外気導入スタンドオフの空気取込口に組み合わせてください。アダプターの開口部を、スタンドオフの穴を利用して図4のように並べます。
- 3.キットに入っている2個のネジで、アダプターを外気導入スタンドオフの穴に取り付けます。

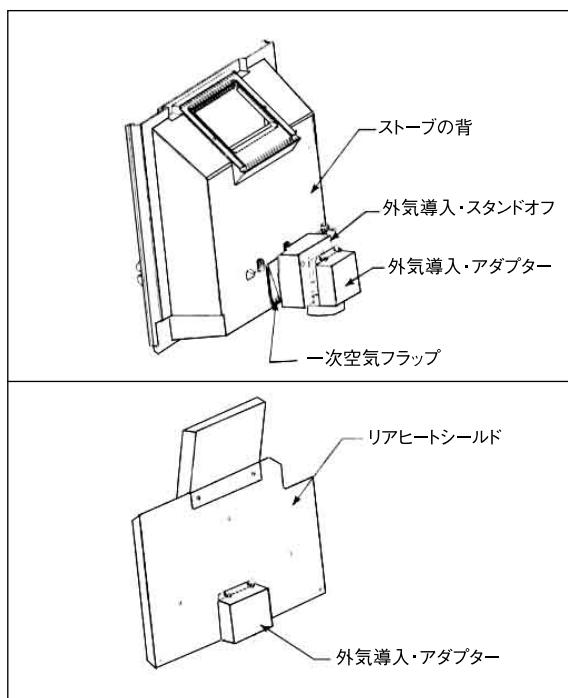


図4 外気導入アダプターの取り付け方

◆煙突の接続方法

煙突の最初の部分(細く絞った方)を、フルーカラーに差し込みます。カラーに既にあけられている穴を目安に、ドリルを使って、煙突を貫通する3mmの穴を開けてください。付属の3個の#10X1/2"ネジを使って、煙突をフルーカラーに固定せます。

運転の仕方

◆コンコードの仕組み

コンコードの燃焼は、2つの独立した空気供給システムによってコントロールされます。

ストーブの左後ろ隅にある一次空気コントロールレバーは、火を起こす／火を維持する／火の勢いを調整する時などに必要な一次空気の取込量を調整します。空気が多く入れば、それだけ火力は強く、燃焼は早くなります。逆に空気が少ないと、より長く燃えますが、火力は弱まります。

空気の取込量を最大にして火力を最大にしたいときは、(それだけ燃焼時間は短くなります)レバーを左端まで動かしてください。火力は弱くても長く燃焼させたいときは、このレバーを右に動かします。レバーは、この範囲であればどの位置にでも設定することができます。

火を焚き付けるとき、化学薬品や液体燃料で着火させることは絶対に避けてください。ゴミや引火性の液体(ガソリン、ナフタ、エンジンオイルなど)も燃やさないでください。ガソリンタイプのランプ油、灯油、炭、ライターオイルなどを使って着火させたり、火を強くすることもしないでください。コンコードの運転中は、このような液体はできるだけ遠ざけておいてください。

注意:コンコードは運転中、非常に熱くなります。子供や衣類、家具を近づけないでください。運転中のコンコードに触ると火傷する恐れがあります。

コンコードは燃やしすぎないようにしてください。過剰燃焼は火災やストーブの損傷につながりかねません。一方所でもストーブが真っ赤になっていれば、過剰燃焼の状態であるということです。

手動でどのようにセットしてあっても、自動サーモスタッフが作用して均一な熱出力が得られるのがコンコードの特徴です。燃料が燃えるにつれ、サーモスタッフは、ストーブの表面から放射される熱に反応し、エアーシャッターを調整します。火力（および熱出力）が強くなると、サーモスタッフが徐々にエアーシャッターを閉め、その結果燃焼空気の取込量が減ります。火が弱まり、熱出力が減ってぐると、サーモスタッフが再び反応して、エアーシャッターが徐々に開き、こうして火力を強めるための燃焼空気がもっと入ってくるようになります。こうした絶え間ない空気の増減によって、燃焼サイクルは燃料が尽きるまで続きます。

空気はもう1つ別のルートから取り込まれ、火室の上方部に供給され、これにより主燃料から発生するガスの燃焼を助けます。この二次燃焼空気は、2つの引き込み口から無限にストーブ内に取り込まれ、別のルートを通りぬけてくる間に熱せられ、火室のトップにある3つのステンレス製の多孔管に送り込まれます。

◆燃料は品質の良い薪を

コンコードは天然の薪を焚くように設計されています。他の燃料は焚かないでください。

よく乾燥させた薪を焚くと、最高の燃焼が得られます。生木などきちんと乾燥させていない燃料は焚かないでください。

薪は最長50cmまで入りますが、短い方が投入が簡単ですし、燃焼効率も高くなります。

良い薪材とは、カシ、カエデ、ブナ、ナラ、クヌギなど堅い木を割って、積み上げ、カバーをかけた状態で屋外で1年以上乾燥させたものです。

堅い薪が手に入らない地域では、カラマツ、アカマツ、スギ、ヒノキなどをよく乾燥させて焚いてください。

薪はストーブから十分に安全な距離をとって置いてください。ストーブに薪をくべたり、灰を出したりする作業のためのスペースの確保も必要です。

◆エアーコントロールの調整

空気の調整具合は、これで絶対というものはありません。薪の質やどのくらい暖かくしたいか、どのくらい長く火を保ちたいかなどの条件により異なってきます。

また、据え付け具合によるドラフトや、煙突の吸い込み力によってもセッティングを変える必要があります。ドラフトは煙突の長さ、種類、位置、住宅の地理的状況、近くの障害物などによっても異なります。ドラフトが強すぎると、温度が上がり過ぎ、コンコードを傷める原因になります。一方、ドラフトが足りないと、煙が煙突やストーブの接続部分から室内に逆流したり、煙突が詰まったりします。

ドラフトが強すぎる場合は、燃焼がコントロールできなかったり、ストーブの一部が真っ赤になったりという症状が出ます。逆に弱すぎると、ストーブや煙突の接続部分から室内に煙が漏れて来たり、まったく温度が上がらなかったり、ガラスが汚れるなどの症状が現れます。

最近の住宅は密閉性が優れているので、ドラフトが悪いと室内の空気が足りなくなる可能性があります。そのような場合には、ストーブの風上にある窓を少し開けて、新鮮な空気を室内に取り入れてください。

ストーブに十分な燃焼空気を送り込むためのもっと良い方法としては、外気導入ダクトで直接取り込むという方法があります。コンコードにはオプションの外気導入アダプターがあります。販売店からお買い求めください。

ストーブを最初にご使用になるときは、エアーコントロールのセッティング方法を研究してみてください。特定のセッティングをすれば一定の暖かさが得られることがすぐにおわかりになるでしょう。暖かさと燃焼時間の関係がわかるまでには、多少の時間がかかるかもしれません、いろいろなセッティングを試してみてください。

どのような理由であれ、エアーコントロール調整幅の指定範囲を変えてまでストーブの燃焼を強くすることは絶対に避けてください。

手始めに、エアーコントロールは次のようにセットしてみてください。

コンコードのエアーコントロール・セッティング

燃焼の程度	一次空気コントロール	シャッターの位置
高	最も左側の位置	全開
中	センターの位置	半開
低	最も右側の位置	全閉

ストーブを使い始める前に、付録のドラフト管理（11ページ）を読み、据え付け環境がいかにストーブの性能に影響を与えるかを理解してください。また、使用者とストーブとは一体ですが、システムの他の部分も性能に強い影響を与えます。ストーブの性能を高めるには、ご自分の燃焼テクニックを高めることも大切です。

◆着火と火の保持

●慣らし運転とストーブの調整

鋳物は非常に強固な材料ですが、ハンマーなどの鋭い一撃を受けたり、急激な温度変化を受けると壊れことがあります。鋳物の板は温度変化によって伸縮します。はじめてコンコードをご使用になるときは、次に示すステップ1~3の手順に従って3、4回慣らし運転をし、熱によるひずみを最小限におさえるようにしてください。
燃料は薪だけです。直接グレートの上に載せてください。薪の位置を高くしがたいため、石炭などほかの燃料を焚くことは絶対にやめてください。

警告:ストーブは必ずドアを開めて燃やしてください。
火をつけるときや薪を投入するときは、一次空気取込口を「開」にしてください。

ステップ1／一次空気取込口を全開にします。(レバーを最も左側の位置にします)

ステップ2／新聞紙を丸めてストーブの中に入れます。カラー紙や光沢のある紙はよく燃えませんので使わないでください。新聞紙の上、火室の手前に、乾燥した指の幅大に割った焚き付けを6~8本載せ、その上に直径25~50ミリに割った薪を2、3本載せてください。(図5参照)

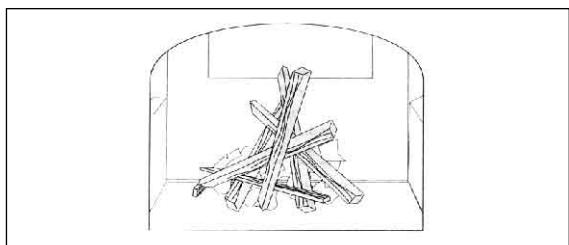


図5 乾燥した小さな焚き付けで火をつけます。

◆薪を足すのは、オキが熱いうちに

オキがまだ熱いうちは、薪をその上に足すだけで、火は再び燃え上がります。薪を足すときは、焚き付けを少し混ぜると、温度はすぐ上昇します。薪を足すときは、ストーブ用の手袋をはめ、手順に従って行ってください。

ステップ1／サーモスタッフ・レバーを全開にします。

ステップ2／ドアを開けて、灰受け皿の中の灰の量を調べ、必要な灰を捨ててください。

ステップ3／ファイヤーブレース・ツールを使って、炭を砕き、灰をグレートから下に落とします。後方にある炭も前方に搔き出してください。

ステップ4／薪を積むときは、小さく割った薪を先に載せ、ドアを閉めてください。薪を足した後、数分間はエアー・コントロールを全開にセットして運転すると、理想的な燃え方をしてくれます。火が再び燃えていたら、お好みの熱出力が得られるよう一次空気コントロールを調節してください。

◆灰を捨てる

灰は、灰受け皿に目一杯たまらないうちに捨ててください。どのぐらい灰がたまっているかのチェックは、1日1回、あるいは薪を足すたびに行ってください。ストーブ手袋をはめ、ハンドルを持って灰受け皿を引き出します。外したら、水平に持ち、灰がこぼれないよう、気をつけてください。

ステップ3／新聞紙に火をつけ、ドアを閉めます。直径80~120ミリほどに割った薪を少しづづくべながら、火を起こしていきます。慣らし運転で焚く場合は、図6を参照しながら、火を赤々と燃やし、それから自然に消えるようにしてください。

●慣らし運転の場合、ストーブが摂氏200度以上に過熱しないよう、気をつけてください。(オプションのストーブ・トップ温度計をご利用ください)

火の調整は、必要に応じてエアーコントロール・レバーで行います。

●初めてストーブを焚くときは、金属やペイントやセメントのにおいがしますが、これは異常なことではありません。

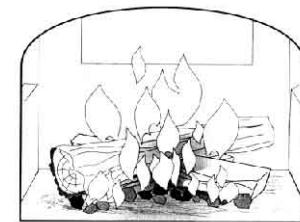


図6 少しづつ大きな割薪を入れて、どの薪もよく燃えるようにします。

注意:

煙突によっては、呼び水的なことをする必要があります。つまり、事前に暖めると、煙突に火が消えないだけの吸引力がつくのです。まず、新聞紙を何枚か丸め、焚き付けの上や後方に置き、火をつけ、ドアを閉めてください。これで煙突が暖まり、十分なドラフトが発生します。ドラフトが発生したら、フロントドアを開けて、燃料床に載っている燃料に着火させてください。煙突の吸引力がつくまでは、主燃料は燃やさないでください。

ステップ4／ステップ1~3を経て慣らし運転がすんだら、徐々に火を焚き続けて、赤々と輝く熾き(オキ)が5センチほど溜まるまで、直径75~100ミリほどの大きな割薪を足していきます。ストーブがよく機能するには、良いオキの床が必要で、これができるまで、1時間ぐらいかかります。

ステップ5／お好みの熱出力に合わせて、サーモスタッフ・エアー・コントロールを調整してください。

灰受け皿は定期的に空にしてください。基本的な頻度としては、最低3日に1度ですが、使用状態によって異なってきます。薪を高出力にセットして焚くと、灰は早くたまります。灰は、きっちりとふたの閉まる金属製の容器に捨て、容器は屋外の燃えやすいものから十分離れたところに保管してください。灰を土にまいて捨てる場合、灰が完全にさめるまで待ってください。木の灰は庭の植物の肥料になります。

注意:ストーブの灰を、掃除機で吸い取ってはいけません。灰は必ず指示された方法で取り除かれなければなりません。

注意:ストーブのドアを乱暴に閉めたり、ガラス板をたたいたりしないでください。ガラス板がない状態やガラスにひびや割れが入ったままストーブを運転しないでください。ガラスの代わりに何かをはめてストーブを焚くこともしないでください。ガラス板の入れ替えについては、メンテナンスの項をお読みください。

◆煙探知機

煙探知機を各部屋に取り付けるようお勧めします。

煙探知機をストーブのすぐそばに取り付けることはお勧めしません。煙探知機の感度にもよりますが、火のそばに人がいるときや、灰を処理するときなどは、アラームを解除しておく方がいいでしょう。ストーブのある部屋に探知機を設置するときは、なるべくストーブから離して設置してください。

メンテナンス(お手入れ)

どのようなお手入れを行うときでも、火は消し、ストーブが完全に冷めてから行ってください。

◆鑄物の表面のお手入れの仕方

乾いた布で時々ほこりを拭きとると、コンコードの鑄物の表面は真新しい感じになります。必要に応じて、表面のペイントを修正することもできます。まず、再塗装したい表面をワイヤーブラシできれいに掃除し、それからマジェスティック製の耐熱ストーブペイントを塗ってください。ペイントは少しずつ塗るようにします。薄塗りを2回する方が、厚塗りを1回するより良い結果が得られます。

◆ホーロー仕上げ表面のお手入れの仕方

汚れやこびりつきを取るときは、乾いた布か少し湿った布、あるいは柔らかなブラシを使います。頑固な汚れには、台所用のクレンザーカホーロー専用のものをご使用ください。

◆ガラスの清掃の仕方

ガラスに付いたすすは、炎が熱く燃えているうちにとれてしまうものです。ただ、ガラス表面に付着した灰の残留物は定期的に掃除して、ガラスに傷がつかないようにする必要があります。ガラスの掃除は次の手順で行ってください。

- ガラスが完全に冷えていることを確認します。
- 水かガラスクリーナーでガラスを拭いてください。研磨クリーナーは使わないでください。
- ガラスをきれいに拭きます。
- ガラスを完全に乾かします。

◆ガラスの交換

交換するガラスは、マジェスティックの専用ガラス(右サイドガラス・パーツ#1408629)か(左サイドガラス・パーツ#1408630)だけを使用してください。ガラスはガスケットでできたクッションの上に載っていて、2つのクリップで固定されています。ガラスの片面は軽くカラーコーティングされています。ストーブからドアを取り外し、水平な作業台に置いてください。ホーロー仕上げの場合は、表面を保護するため、タオルを敷くと良いでしょう。

- 1.ドアのマニホールドを外します。(プラスネジ2個)
 - 2.止めクリップ(リティナークリップ)をはずしてください。(1つのクリップに2個のプラスネジ)
 - 3.ガスケットを点検します。ウインドウのガスケットに何も問題がないときは、そのままにします。交換が必要なときは、必ずマジェスティックのガスケット1203516を使い、これ以外は使わないでください。ウインドウ開口部の周囲の溝にごみやほこりが詰まっていることを確認してください。
- ガスケットをパネルのはめ込み部分に入れてください。

4.ガラスを入れます。(ドアの外側に向かって)コーティング面を下にして、インナーガスケットの上にガラスを置くようにします。それからネジをきちんと締めますが、ストーブの運転中にガラスが軽く動ける程度のゆるみを残しておいてください。ネジをきつく締めすぎると、すぐにガラスにひびが入ったり、熱になったときに膨張しきれず割れる原因になります。

◆ガスケットの交換

特定のパーツ間を密閉するため、コンコードはロープ型のファイバーガラス製ガスケットを使っています。ガスケットは使用するにつれてもろくなり、ぶぶれ、本来の効果が薄れています。特に可動部分につけられたガスケットでこの傾向が強まります。ガスケットは定期的な交換が必要な部品です。

交換ガスケットのサイズと使用部分はP14部品図をご覧下さい。

ガスケットの交換は、火が完全に消え、ストーブが冷めてから行ってください。安全メガネやマスクを着用するなど、安全対策をとった上で行ってください。

ステップ1／現在ついているガスケットの端をつかみ、しっかりと引っ張って、取り除いてください。

ステップ2／ワイヤーブラシかネジ回しを使って、溝をきれいにします。セメントやガスケットが残らないように掃除してください。頑固なセメントは、タガネなどを使って取り除きます。

ステップ3／溝に合わせて置くなどして、ガスケットのサイズや長さを決定してください。25~50ミリの余裕を持って、切断する箇所に印を付けます。

ステップ4／溝からガスケットを取り外し、木の台の上に置き、ナイフで印をつけた箇所で切斷します。端を少したばね、ガスケットがほぐれないようにしてください。

ステップ5／ガスケットセメントを、切れないようにして3ミリ幅のビーズ状にして、掃除のすんだ溝に入れましょう。

ステップ6／片方の端からガスケットを溝に埋めていきます。ガスケットが出会う箇所では、しっかりと押しつけます。この作業は、ドアを閉めて、掛け金を掛けると自然にできます。そのとき、ワックススペーサーなどをドアに挟んでから閉めると、セメントがガスケット以外の部分にくっつけるのを防ぐことができます。

ステップ7／ガスケットが溝に均一におさまるよう、ガスケットを入れた箇所をしっかりと押しつけます。この作業は、ドアを閉めて、掛け金を掛けると自然にできます。そのとき、ワックススペーサーなどをドアに挟んでから閉めると、セメントがガスケット以外の部分にくっつけるのを防ぐことができます。

ステップ8／溝の周囲にはみ出たセメントを取ってください。それから、セメントが完全に乾燥して、新しいガスケットがしっかりと接着するのを待ちます。

◆煙突システム

●クレオソート

コンコードは、クレオソートの付着が少なくなるように設計されています。しかし、だからといって定期的な煙突の点検や手入れ(メンテナンス)をしなくてもよいというわけではありません。安全、高効率の燃焼、煙突や煙突接続部の保護などのためにも、定期的な計画をたてて煙突や連結部を点検し、必要に応じて掃除をしてください。煙突や煙突接続部がきれいになっていないと、煙突火災が起こる可能性があります。

薪を低温で燃やすと、タール、有機的な蒸気、湿り気が発生し、これらが結合してクレオソートになります。クレオソートの蒸気は、比較的冷えた煙突の中で凝縮します。その結果、クレオソート残留物が煙突内部に付着してしまいます。このクレオソートに火がつくと、煙突内部で非常に高温な火となり、煙突に損傷を与え、近くにある可燃性材の物を過熱させることもあります。煙突の火事が発生したらすぐに：

- ・サーモスタートのレバーを閉じる。
- ・家の中にいる人を全員外に出す。
- ・消防署を呼ぶ。

ストーブを使うシーズン中は、通常のメンテナンスにこの煙突システムの点検を加えましょう。2週間に1度の頻度で行います。点検をするには、まずストーブが完全に冷えるのを待ち、鏡と強力な懐中電灯で、フルーカラーのところから煙突内部を見上げてください。このようにして見ても煙突内部が見にくい場合は、もっと見えやすくするためにストーブをずらしてください。

3mm以上のクレオソートが層になって付着していたら、除去して、煙突の火災を防ぎましょう。

煙突径に合うサイズのブラシで煙突の中を掃除します。よくするファイバーグラスの棒を上げ下げして、煙突の内側をこすると、クレオソートの付着物が底に落ちてきますので、これを掃除口からかき出してください。

◆シーズンの終わりのメンテナンス

ストーブを焚くシーズンが終わったら、徹底的な掃除や点検をし、必要な場合は修理を施して、来シーズンに備えましょう。

- 煙突や煙突接続部を徹底的に掃除します。
- 煙突の損傷や劣化を調べます。必要なら煙突の弱くなった部分を交換しましょう。
- 煙突接続部の損傷も調べて、必要なら痛んでいる部分を交換してください。
- 一次空気プレートの下の灰やごみを掃除します。
- ガスケットの摩耗やつぶれをチェックし、必要に応じて交換してください。1枚の紙でガスケットの摩耗テストができます。紙をはさんでドアを閉めてみてください。それから紙を引っ張ってみます。何の抵抗もなくするすると紙が抜けたら、その部分のガスケットが効いてない証拠です。ラッチを調整してもまだ紙ができる抜けるようなら、ガスケットの交換時期が来ているということです。
- ドアハンドルの固さを調べ、必要に応じて調整をします。
- ヒートシールドのネジを点検し、必要に応じて締めてください。
- ボトム、リア、煙突ヒートシールドの内側のごみを掃除します。
- 灰受け皿の灰を捨て、吸湿材(猫のトイレの砂など)を入れ、ストーブの内部が乾燥するようにしてください。この場合、ドアは必ず閉めておきましょう。
- ブラックのストーブの場合、ペイントを補修塗りします。

◆一次空気出口の掃除

- 1.一次空気プレートを止めているプラスネジをはずします。
- 2.ネジ回しをテコ代わりに使って、セメント付けした合わせ目からプレートをはずしてください。
- 3.へこみ部分から灰のかすを取り除きます。
- 4.耐熱セメントを使って、フロントとサイドの合わせ目を再びセメントで密閉し、プレートを戻したら、プラスネジで固定します。

◆ドラフト管理

ストーブは、煙突、使う人、燃料、設置住宅環境からなる総合的なシステムの一部だと思ってください。こうしたストーブ以外の要素が、ストーブの調子に大いに影響してくるのです。すべての要素の相性が良いと、ストーブは効果的に働きます。

薪ストーブの燃え具合は、ドラフト(強制的でない)次第です。ドラフトとは、排気ガスの温度が、煙突の先端部分で外気温度よりも高い(従って軽い)ときに起こる空気の動きです。この温度差が大きければ大きいほど、ドラフトは強まります。熱い排気ガスが煙突から上がるとき、吸引力が起り、空気が煙突からストーブに引き込まれて燃焼空気となります。ストーブ本体の空気取込口をしづらってゆっくり弱火で燃やしていると、ドラフトは弱くなります。空気取込口を大きく開いて盛んに火を焚くと、良いドラフトが生まれます。しかし、この空気取込口は受け身です。取り込む空気の量の調節はできても、空気を積極的にストーブの中に引き込むことはできません。

近代的な薪ストーブでは、燃焼用空気の量が調整できます。こうした薪ストーブの効率の善し悪しは、煙突が排気ガスを最後まで暖かく保てるかどうかにかかっています。煙突が鉄製かレンガ製か、家の内部にあるか外側に出ていているなどの条件により、強力なドラフトを早く起こせるか、高効率燃焼の維持に必要な最適温度をずっと維持できるなどは、お客様の煙突の特性次第なのです。次に、いろいろなシステムの特徴と、それがストーブの性能に与える影響についてご説明いたしましょう。

◆石材でできた煙突

石材は伝統的な煙突素材ですが、燃焼が調整できる近代的な薪ストーブを使うときには不向きです。石材の煙突では「熱の落ち込み」がはっきりと出ます。長期間燃やしていると、レンガが熱を吸収・蓄積することができます。しかし、煙突には多量のレンガが積んであるので、これらすべてが強いドラフトを起こせるほど熱くなるには時間がかかりすぎます。冷えた石の煙突は排気ガスの温度を上げないどころか、ドラフトの力を消してしまいます。もし煙突が屋外に出ていたり、煙突の断面積がストーブの排気口よりも大きい場合、問題はさらに深刻になります。

◆スチール煙突

工場製のスチール製の煙突のほとんどが、断熱効果を持った多重構造になっています。内側の煙突は高温になりますが、外側の煙突で断熱されているので、周囲の構造物が高温にならず、かつ煙突を通り抜ける煙の温度は下がらません。スチール煙突の内側のライナーは石の煙突よりずっと早く温度が上昇します。スチール煙突にはレンガ煙突のような風情はありませんが、耐久性、性能は非常に高いのです。

◆煙突は屋内にある方がいいのか、屋外にある方がいいのか?

煙突の機能は煙を暖かく保つことですので、煙突は屋内にあるのがベストです。煙突を家の中につけると、外気の影響を受けることもなくなりますし、煙突からの放射熱が家の中へ発散されます。屋外に逃げる熱が少ないということは、ストーブの熱のロスが少なくてすむということになります。

◆煙突のサイズ

燃焼制御型のストーブの煙突のサイズは、ストーブの排気口の断面積の大きさに基づくべきですが、この場合、大きいことが必ずしもベストではありません。熱いガスは膨張により熱を失います。フルーカラーが6"(28平方インチ)のストーブに10"×10"の煙突を連結させると、ガスは最初の量の3倍に膨れあがります。その結果、ガスの温度が下がり、ドラフトの力も弱まります。また、大きすぎる煙突が屋外にある場合も、吸収する熱は屋外に放出されてしまうので、煙突は比較的低温のままになってしまいます。

一般的に、石材でできた煙突はストーブに対して大き過ぎます。このような煙突は暖まるまでけっこう時間がかかり、その結果、ストーブが思ったほど暖かくならないということになります。大きすぎる煙突に対する一番良い解決方法は、ストーブのフルーカラーと同じ直径の断熱式のスチール煙突を取り付けることです。このライナーは排気ガスを暖かく保ち、結果的に強力なドラフトが得られます。第二の方法として、断熱処理していないライナーがあります。このライナーは排気ガスの量を最初のレベルに保ちますが、ライナーのまわりの空気が暖まるまで、時間と熱エネルギーを消耗するのが難点です。

◆煙突のレイアウト

煙突の曲がりは、火室から煙突トップに至る排気の流れにとってブレーキの役割を果たします。理想は、煙突がストーブからまっすぐ上に伸びるレイアウトです。できるだけこのレイアウトにしてください。ストーブの能力がもっとも良く発揮され、メンテナンスも簡単です。ストーブパイプをエルボーを使って煙突につなぐときは、ストーブのトップ(天板)と煙突の中間にエルボーがくるようにしてください。このように配置すると、煙のスピードが上がり、スピードアップした状態で曲がり、室内のパイプを熱交換に使えます。

◆煙突は共用しないでください

ストーブの煙突は、ストーブだけのために使い、ほかの器具とは共用しないでください。ドラフトは自然なエネルギーなので、抵抗が少ない方に進みます。ストーブの通気が、ファイヤープレスやほかの器機につながっていると、ドラフトはこれらの器機などからも空気を引き込んでしまいます。このようにして取り込まれた余分な空気の流れは、温度を下げ、ドラフトの強さを損ない、クレオソートをより多く発生させ、ストーブ全体の性能を悪くてしまいます。たとえてみれば、ホースに穴が開いた掃除機のようなものです。極端な場合、ほかの器機のドラフトが負のドラフトを起こし、その結果、危険な「ドラフトの逆流」が起っています。

◆燃料

ストーブが最高の状態で据え付けられたとしても、燃料が悪いと良い燃焼は得られません。必ず1年から1年半かけて乾燥させた堅い木を焚いてください。柔らかい木は堅い木よりも早く燃えますが、クレオソートの原因となる樹脂をたくさん含んでいます。朽ちた木は燃やしても少しも熱を発生させません。使わない方がいいでしょう。

乾燥させていない生木は水分を多く含んでるので、熱のほとんどは、木が燃える前に、水分を蒸発させるのに使われてしまいます。このため、暖房のための熱量が減るだけでなく、火力や排気ガスの温度まで下げてしまいます。不完全燃焼と煙突の低温により、クレオソートの形成が促進され、ドラフトは弱まります。

薪に水分がたくさん含まれているかどうかは、外観や重さからも推測できますが、市販の湿度計を使うと正確に測れます。乾燥していない木の重さは、乾燥した木の3倍あります。また、木は乾燥すると縮むので、薪の端の割れ具合を見て判断することもできます。割れ目が長く、割れ目の幅が広いほど、木はよく乾いています。

◆クレオソート

クレオソートは、ストーブを低温で焚いたときの副産物です。煙突の内側の温度が摂氏149°以下で凝縮した結果できるタルがクレオソートです。クレオソートは揮発性で、煙突の火災を起こしかねません。煙突のドラフトにマイナス効果をおぼすものはすべてクレオソートの生成を促します。ということは、煙突の設計を効果的なものにするか、良いドラフトを起こすようにストーブを運転させられれば、クレオソートの発生を最低限に抑えられるということです。

◆バックパフ

バックパフは、ドラフトが弱くて、煙突の吸引力が弱すぎるために、火の燃える速度に合わせて排気ガスを煙突システムに引き込めないときに起こります。火室で発生した不安定なガスは、ある程度の濃度／温度に達すると点火して、ポンという音と共に多少の煙が空気取込口から押し出されます。

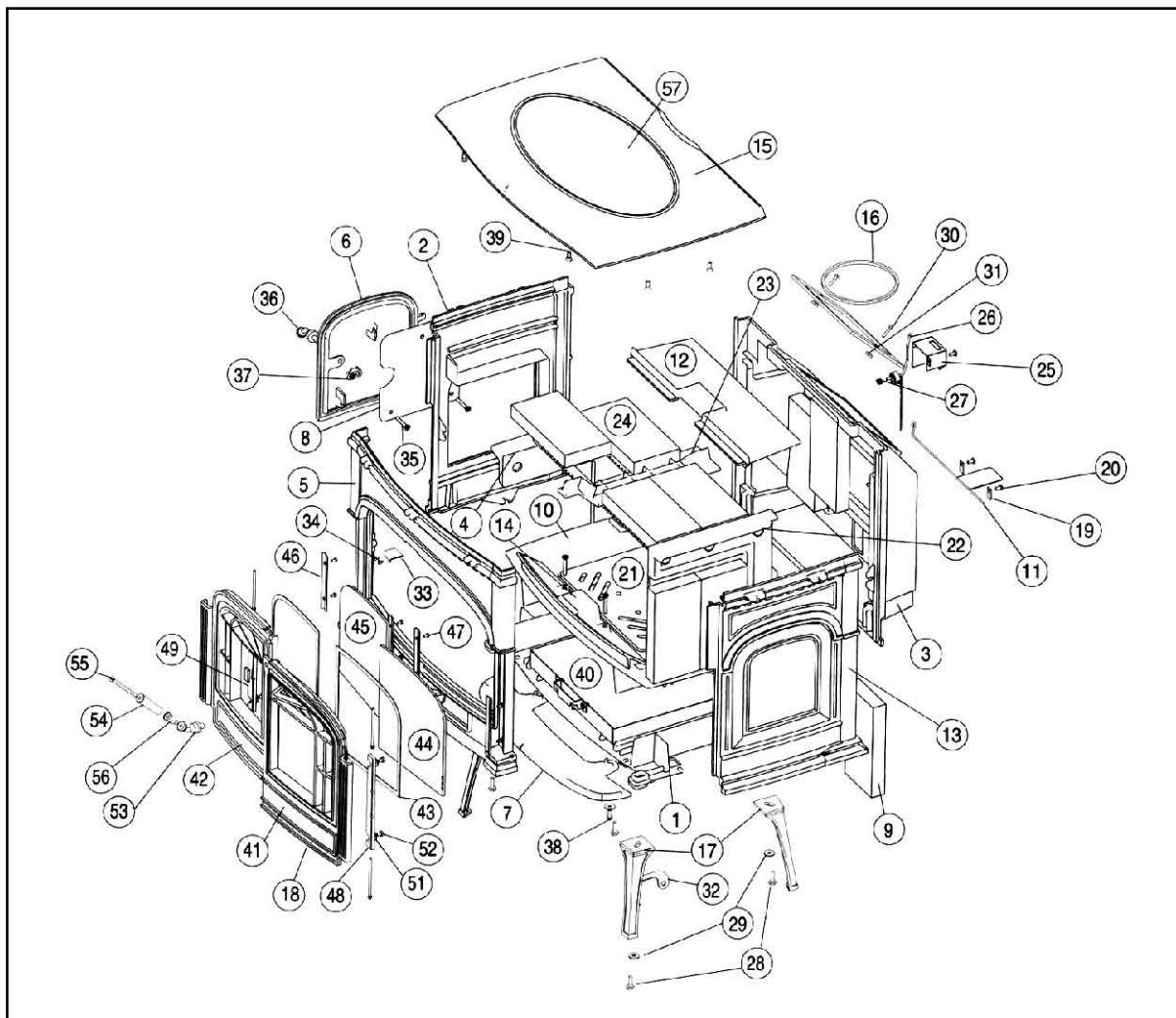
これは春先によく起ります。外気の温度がゆるみ、弱火で焚くようになると、ドラフトが弱まり、バックパフが起る環境が整います。ストーブがバックパフを起こしたら、空気取込口を開いて、火がよく燃えるようにし、ストーブの中の空気の流れを促進させるようにします。一度にたくさん薪を入れないでください。火室を常に観察して、勢いよく火を燃やしてください。くすぶった火は暖かくならず、トラブルの元になります。

◆負の圧力

良いドラフトは、ストーブに十分な空気が供給できるか否かにかかっています。煙突は、供給される以上の空気は吸い込めません。弱いドラフトの原因としては、1)家が密閉されていて、ストーブに十分な空気が供給できない、2)ストーブ以外に、室内空気を外気と入れ換える方式の器機(例:台所の換気扇、衣類乾燥機、浴室)があり、空気争奪戦になっている、の2点が考えられます。これらの器機を止めることにより(ファイヤープレスの場合は密閉することにより)、煙突の吸い込みが良くなるようでしたら、各器機の使うタイミングに気をつければ問題は解決です。部屋の窓やドアに換気穴をつけようというのでしたら、むしろ専用の外気導入アダプターを取り付けて、燃焼空気がストーブに直接入るようにした方がいいでしょう。このアダプターをご希望の方は、販売店にお問い合わせください。

◆結論

薪を焚くということは、科学というより芸術の領域に近いかもしれません。芸術には技術も含まれています。据え付け、家屋、燃料が多様であることから、ストーブを使う人は、良い燃焼を得るための技術(主にタイミング)を培わなければなりません。しばらく使っているうちに、季節ごとの使用方法のこつがのみこめるようになるでしょう。



コンコード パーツリスト

Item/Model Number	Part Number	Item/Model Number	Part Number
1.Bottom,Outer	30000795	14.Primary Air Manifold	30000814
2.End,Left	30000797	15.Top	30004697 30004698 (RED)
3.Back	30000798	16.Exhaust Flue	70000969
4.Secondary Manifold,Left	30000802	17.Leg	30000816
5.Front	30000808	19.Damper Tab	1601488
6.Load Door	30000811	20.Pan Hd,PH1/4-20x3/8"	1200993
7.Ashlip	30000815	21.Base	30000800
8.Door End Inner Shield	30000812	22.Secondary Manifold,Right	30000801
9.Firebrick (4)	1601103	23.Brick Support	30000804
10.Bottom,Inner	30000799	24.Secondary Air tube (2)	30000803
11.Primary Air Flap	30000778	25.Thermostat Cover	30000371
12.Fireback	30000813	26.Thermostat Sub-Assy	30000503
13.End,Right	30000796	27.Friction Spring	1201846

コンコード パーツリスト

Item/Model Number	Part Number
28.Leveller Bolt,1/4-20 x 1"	1201745
29.Washer,1/4" 7/8" O.d.	30001245
30.Rd.Hd,PH1/4-20 x 1"	1200907
31.Nut,Square1/4-20	1203329
32.Insert Door Handle,Holder	160600
33.Door Latch	1408628
34.Pan Hd,PH10-24 x 1/4" (2)	1200996
35.FL.Hd,PH1/4-20 x 1C/v"	1200830
36.Front Handle w/Shift	5004245
37.Pawl Assy,Ash Door	5004025
38.CS,Hex Hd 1/4-20 x 5/8"	1201372
39.FL Hd,Allen 1/4-20 x 3/4"	30001166
40.Ashpan Assy	30001167
41.Door,Right	30000809
42.Door,Left	30000810
43.Gasket,Glass	GK166GF
44.Glass,Door,Right	1408629
45.Glass,Door,Left	1408630
46.Glass Retainer	30000474
47.Pan Hd,PH 10-24 x 3/8"	1200983
48.Hinge Strap,Door,Right	30001222
49.Hinge Strap,Door,Left	30001223
50.Pin,Long,Door	1600547
51.CS,Hex Hd 1/4-20 x 3/8"	1201337
52.Washer Flat 1/4"	1202474
53.Door Handle Assy	5004225
54.Handle,Wood	1600664
55.Screw	1201294
56.Handle	1600650
57.Griddle	30004700

注:

- 1.本マニュアルで右、左とあるときは、ストーブに向かって右、あるいは左という意味です。
- 2.ガラスの交換には、パーツ番号1408629(右側)と1408630(左側)以外は使用しないでください。
- 3.鋳物部品のパーツ番号は「クラシック・ブラック」のストーブの番号です。ホーローストーブ用のものをご希望のときは、色を指定してください。
- 4.このストーブに使われているネジ類はインチサイズです。

ガスケット使用部	ガスケットのサイズ	ガスケットのサイズ
トップガスケット	GK166TP	3/8"
フロントドアガスケット	GK166FD	3/8"
サイドドアガスケット	GK166SD	3/8"
グリドルガスケット	GK166GR	5/16"



Dutchwest Japan
wood stoves & fireplaces

ダッヂウエストジャパン株式会社
〒080-0010 北海道帯広市大通南28丁目4
フリーダイヤル **0120-700-027**